

4) 注目種(20種)の生息・繁殖状況

(1) 調査期間

本調査の実施期間を表 6.1.5-14 に示した。

表 6.1.5-14 調査期間一覧

地区	春季	夏季	秋季	冬季
G地区	平成30年4月24日～25日、5月9日～10日、6月20～22日	平成30年9月12日～15日、18日～20日	平成30年10月23日～25日、29日～31日	平成31年1月15日～17日、2月13日～15日
H地区	平成30年5月23日～24日、6月25～27日	平成30年9月19～21日、25日～27日	平成30年10月29日～31日、11月19日～21日	平成31年1月9日～11日、2月13日～15日
N-1地区	平成30年5月24日～25日、6月12～14日	平成30年9月25日～27日、19日～21日	平成30年10月23日～25日、11月26～28日	平成31年1月9日～11日、2月13日～15日
N-4地区	平成30年6月5日～8日	平成30年7月3日～6日	—	—

注) —は調査終了を示す。

(2) 調査方法

本事業の環境影響評価図書で定めた注目種について、その生息・繁殖状況を記録する。具体的には、表 6.1.5-15 に示す注目種等について、生息・繁殖状況の記録を行った。

表 6.1.5-15 調査対象及び調査手法

No.	注目種	調査方法
1	ノグチゲラ	ライン踏査を行い、確認場所や行動様式、営巣場所を記録した。
2	ヤンバルクイナ	コールバック調査及びライン踏査を行い、確認場所や行動様式、営巣場所を記録した。
3	ホントウアカヒゲ	ライン踏査を行い、確認場所や行動様式、営巣場所を記録した。
4	リュウキュウヤマガメ	ライン踏査を行い、確認場所を記録し、幼体と成体に分けて記録した。
5	ヤンバルテナゴコガネ	樹洞を観察し、生息の可能性が認められた場合、現状を保全して必要な許可を取得した上で生息状況を記録した。
6	オキナワイシカワガエル、ハナサキガエル、ホルストガエル、ナミエガエル	繁殖期に沢を日中及び夜間に踏査し、生息や繁殖状況、繁殖場の位置を記録した。
7	オキナワミナミヤンマ	成虫は、踏査により確認地点を記録、幼虫は沢においてタモ網採集により確認した。
8	アオバラヨシノボリ、キバラヨシノボリ	調査範囲内の河川において、確認位置や生息・繁殖状況(雌雄の成魚数、未成魚、浮遊仔魚の個体数)を記録した。
9	ヤンバルホオヒゲコウモリ、リュウキュウテングコウモリ	日中の樹洞及び河岸の岩の隙間、多量の葉が付いた折れ枝等の日中の探索を行った。また、生息が予測される場所において夜間踏査を行い、バットディテクターにより確認した。
10	オキナワトゲネズミ	ライン踏査を行い、目撃確認や生息跡(食跡、足跡、獣糞内の毛等)を記録した。
11	リュウキュウイノシシ、ハブ、ヒメハブ	ライン踏査を行い、目撃確認を記録した。リュウキュウイノシシについては、生息跡(糞、足跡、ヌタ場等)も記録した。なお、リュウキュウイノシシは、幼獣については、大きさや色彩から判断し、区別して記録した。また、ハブについては、目視で約 100cm 以下の個体を幼体とした(ハブは全長約 40cm で孵化し、最小成熟雌は約 105cm)。ヒメハブについては、目視で約 40cm 以下の個体を幼体とした(ヒメハブは頭胴長約 14cm で孵化し、最小成熟雌は 43.6cm)。
12	マンガース、ノネコ	ライン踏査を行い、目撃確認や生息跡(食跡、足跡、糞等)を記録したほか、トラップ調査や自動撮影の結果も反映した。なお、トラップ調査で用いた罠は、非致死性のカゴ罠(生け捕り罠)であり、木陰に設置し、設置期間中は毎日点検を実施した。
13	重要な大型淡水藻類	調査範囲内の河川において、水上や水中から目視観察を行い確認位置を記録した。

(3) 調査地点

調査は図 6.1.5-18 に示す 4 地区で実施した。

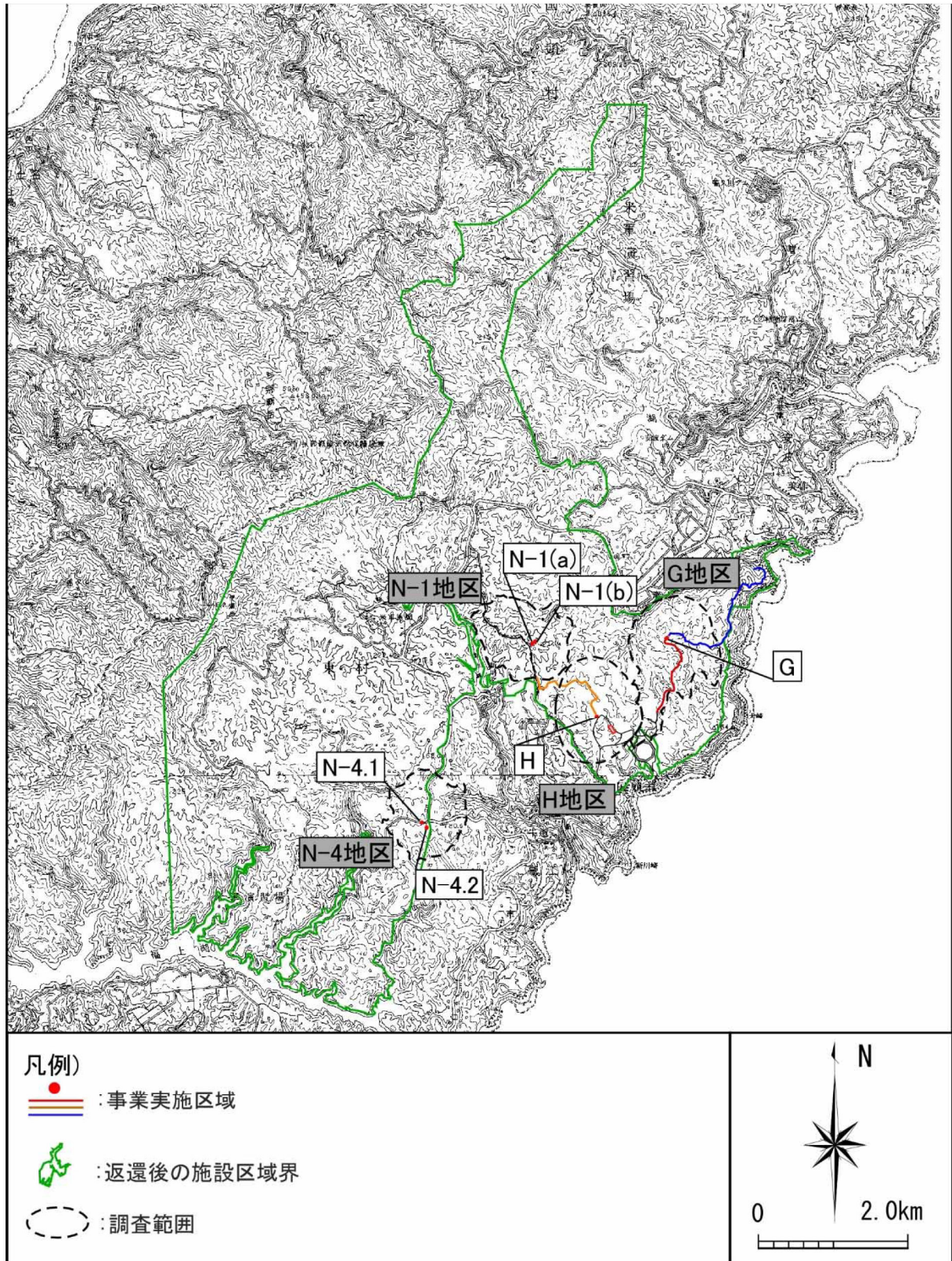


図 6.1.5-18 注目種の生息・繁殖状況の調査範囲

(4) 調査結果

a) ノグチゲラ

ノグチゲラの確認状況を表 6.1.5-16 に、確認位置を図 6.1.5-19～図 6.1.5-22 に示した。

G 地区では、着陸帯 [] で営巣が確認された。個体の確認は [] 個体であり、その他に巣跡が [] ヶ所、掘りかけの巣が [] ヶ所、採餌痕が [] ヶ所で確認された。

H 地区では、営巣の確認はなかったものの、着陸帯 [] で巣立ち後の幼鳥が確認され、周辺で繁殖したものと考えられた。個体の確認は [] 個体であり、その他に巣跡が [] ヶ所、掘りかけの巣が [] ヶ所、採餌痕が [] ヶ所で確認された。これらの確認状況から、調査範囲のほぼ全域で生息しているものと考えられた。

N-1 地区では、着陸帯の [] ヶ所で営巣が確認された。このほかに着陸帯周辺の [] ヶ所で巣立ち後の幼鳥が確認され、周辺で繁殖したものと考えられた。個体の確認は [] 個体であり、その他に巣跡が [] ヶ所、掘りかけの巣が [] ヶ所、採餌痕が [] ヶ所で確認された。これらの確認状況から、調査範囲のほぼ全域で生息しているものと考えられた。

N-4 地区では、着陸帯 [] ヶ所で営巣が確認された。この他に着陸帯 [] で巣立ち後の幼鳥が確認され、周辺で繁殖したものと考えられた。個体の確認は [] 個体であり、巣跡が [] ヶ所、掘りかけの巣が [] ヶ所、採餌痕が [] ヶ所で確認された。これらの確認状況から、調査範囲のほぼ全域で生息しているものと考えられた。

表 6.1.5-16 ノグチゲラの確認状況

G地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成鳥				
	齢不明				
	幼鳥(雛)				
	計				
繁殖	営巣				
	造巣				
巣跡					
掘りかけ巣					
採餌痕					

H地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成鳥				
	齢不明				
	幼鳥(雛)				
	計				
繁殖	営巣				
	造巣				
巣跡					
掘りかけ巣					
採餌痕					

N1地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成鳥				
	齢不明				
	幼鳥(雛)				
	計				
繁殖	営巣				
	造巣				
巣跡					
掘りかけ巣					
採餌痕					

N4地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成鳥				
	齢不明				
	幼鳥(雛)				
	計				
繁殖	営巣				
	造巣				
巣跡					
掘りかけ巣					
採餌痕					

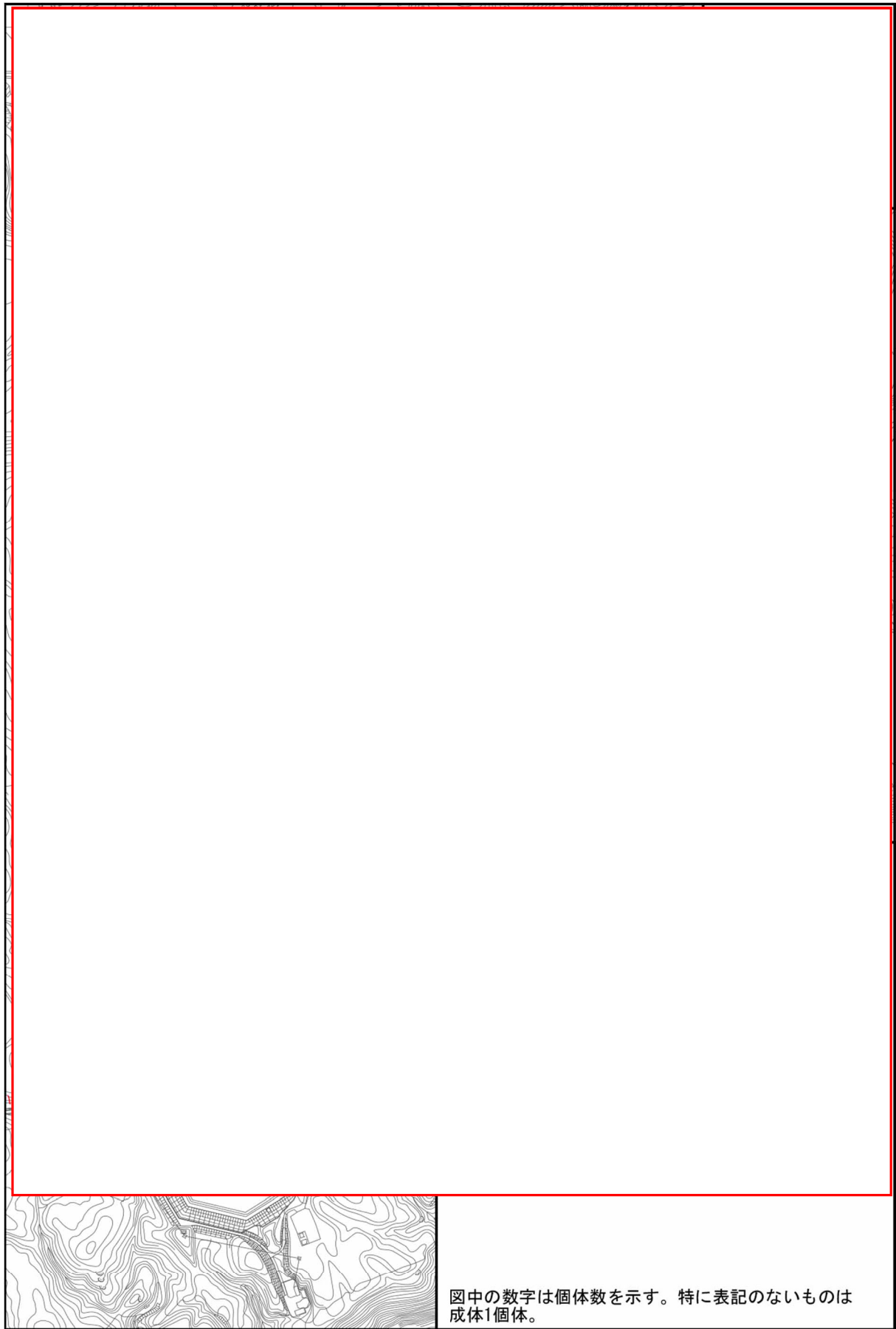
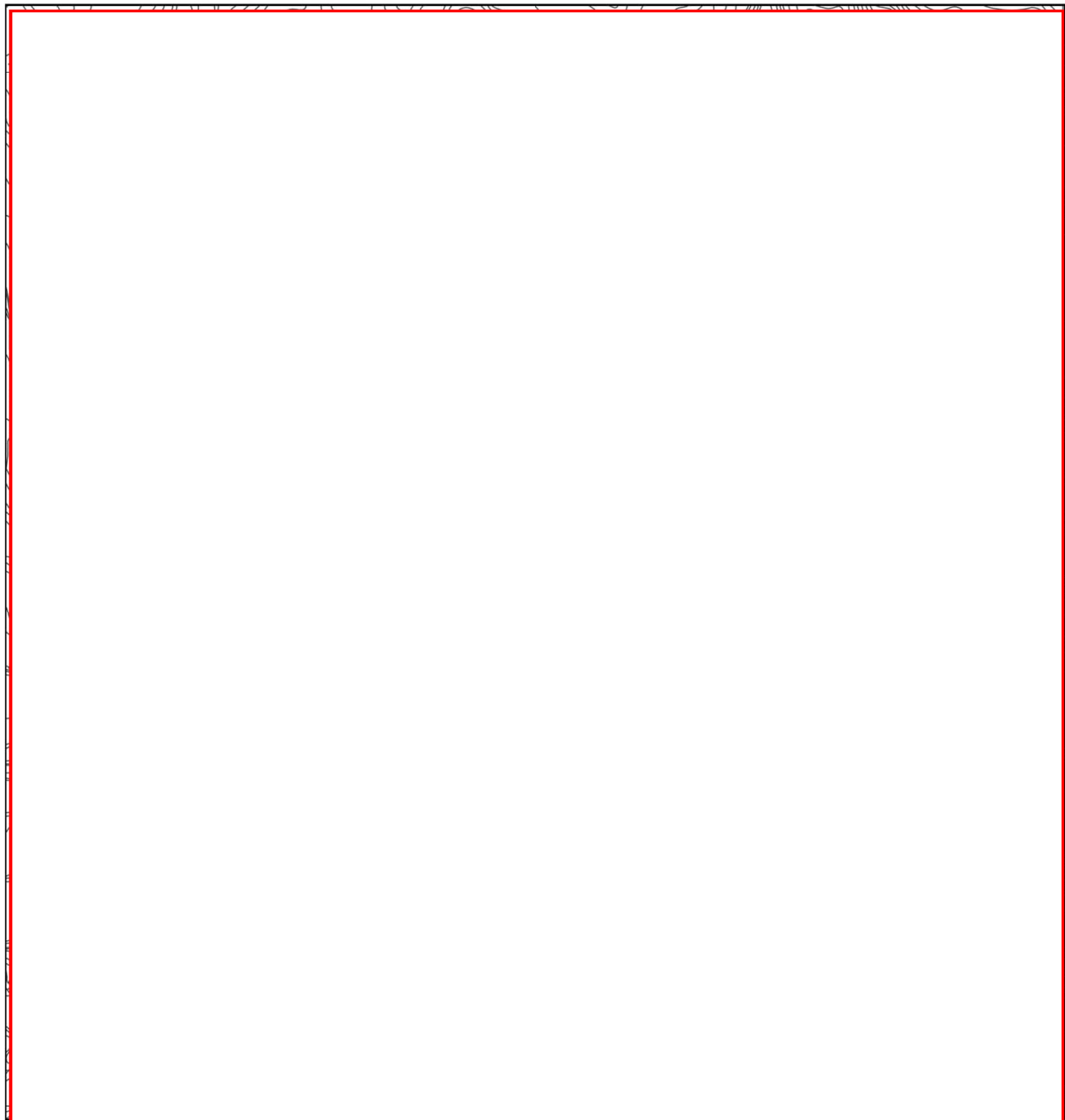


図 6.1.5-19 ノグチゲラの確認位置(G 地区)



凡例

 : 調査範囲
  : 事業実施区域
  : 沢

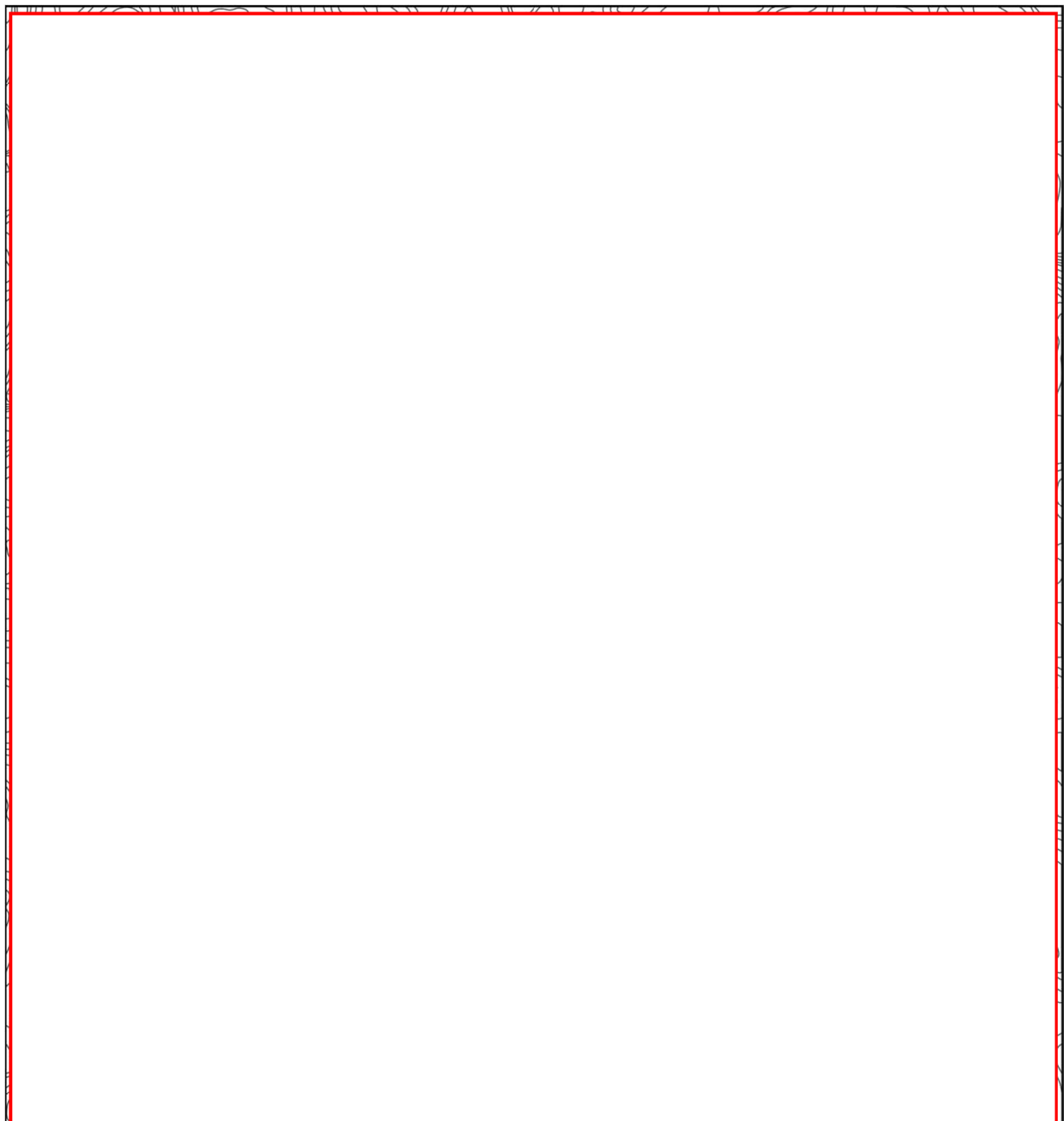
- : 春季 ● : 採餌痕
- : 夏季 ○ : 巣跡
- : 秋季
- : 冬季




0 100 200 300 400m



図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成鳥1個体。

図 6.1.5-20 ノグチゲラの確認位置(H地区)



凡例

 : 事業実施範囲
  : 調査範囲
  : 沢

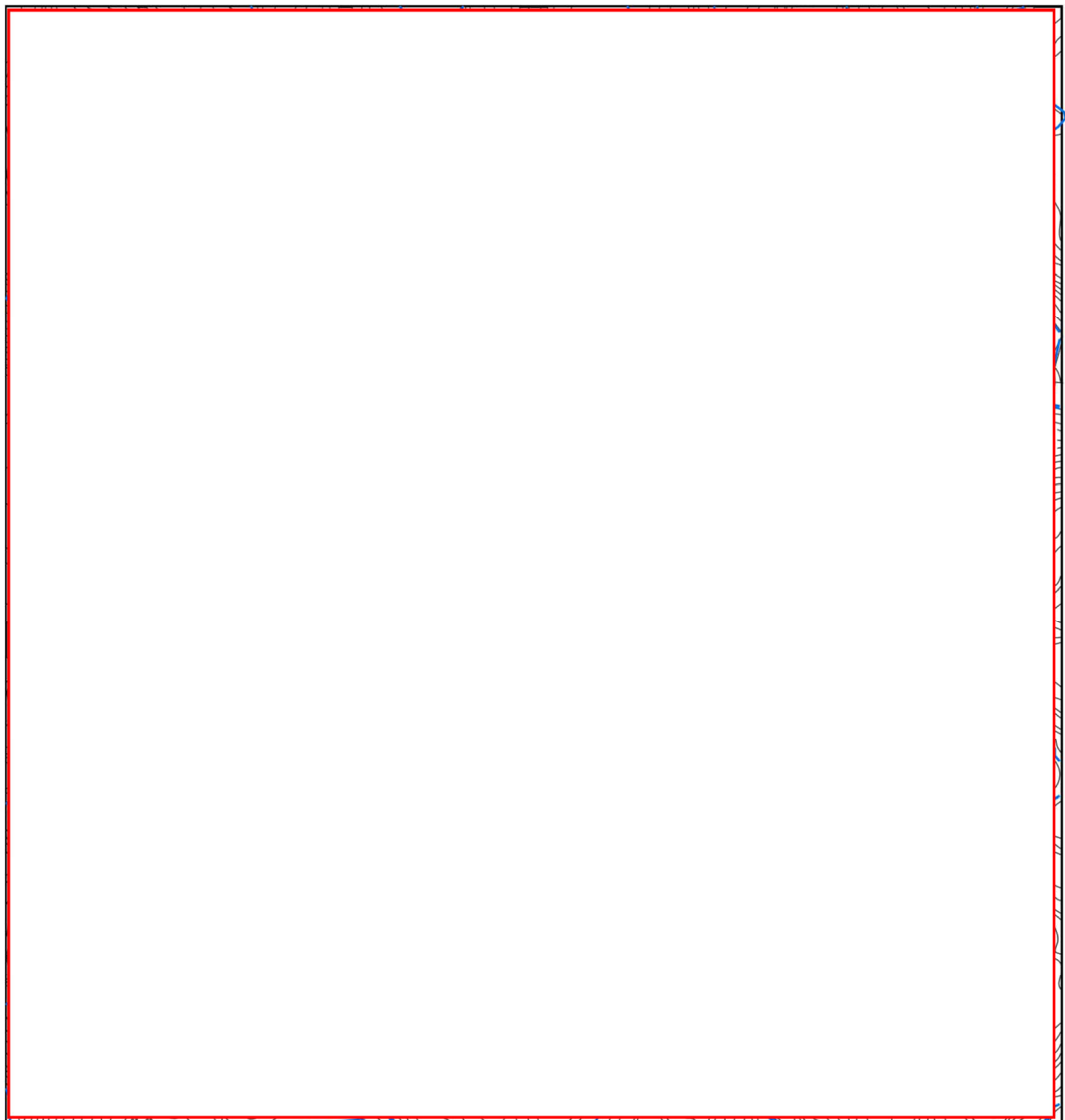
- | | | | |
|---|------|---|-------|
|  | : 春季 |  | : 営巣 |
|  | : 夏季 |  | : 巣跡 |
|  | : 秋季 |  | : 採餌痕 |
|  | : 冬季 | | |



0 100 200 300 400m

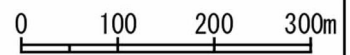
図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成体1個体。

図 6.1.5-21 ノグチゲラの確認位置 (N-1 地区)



凡例

- | | | | | | |
|---|----------|---|--------|--|-----|
|  | : 事業実施区域 |  | : 調査範囲 |  | : 沢 |
|  | : 春季 |  | : 営巣 | | |
|  | : 夏季 |  | : 巣跡 | | |
| | |  | : 採餌痕 | | |



図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成体1個体。

図 6.1.5-22 ノグチゲラの確認位置(N-4 地区)

b) ヤンバルクイナ

ヤンバルクイナの確認状況を表 6.1.5-17 に、確認位置を図 6.1.5-23～図 6.1.5-26 に示した。

G 地区では、春季にのべ□個体、夏季にのべ□個体、秋季にのべ□個体、冬季にのべ□個体を確認された。確認個体数は多くないものの、G 地区の広範囲で目視や鳴き声等により確認されており、調査範囲のほぼ全域で生息しているものと考えられた。

H 地区では、春季にのべ□個体、夏季にのべ□個体、秋季にのべ□個体、冬季にのべ□個体を確認された。繁殖を示唆する行動は確認されなかった。確認個体数は多くないものの、H 地区の広範囲で目視や鳴き声等により確認されており、調査範囲のほぼ全域で生息しているものと考えられた。

N-1 地区では、春季にのべ□個体、夏季にのべ□個体、秋季にのべ□個体、冬季にのべ□個体を確認された。春季調査では親鳥とともに行動する幼鳥 3 個体を確認されており、N-1 地区周辺で繁殖したものと考えられた。確認個体数は多くないものの、N-1 地区の広範囲で目視や鳴き声等により確認されており、調査範囲のほぼ全域で生息しているものと考えられた。

N-4 地区では、夏季に□個体を確認されたのみであり、繁殖状況等は不明である。

表 6.1.5-17 ヤンバルクイナの確認状況

G地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成鳥				
	齢不明				
	幼鳥(雛)				
	計				
繁殖	営巣				
	家族群				
足跡					
採餌痕					

H地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成鳥				
	齢不明				
	幼鳥(雛)				
	計				
繁殖	営巣				
	家族群				
足跡					
採餌痕					

N1地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成鳥				
	齢不明				
	幼鳥(雛)				
	計				
繁殖	営巣				
	家族群				
足跡					
採餌痕					

N4地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成鳥				
	齢不明				
	幼鳥(雛)				
	計				
繁殖	営巣				
	家族群				
足跡					
採餌痕					

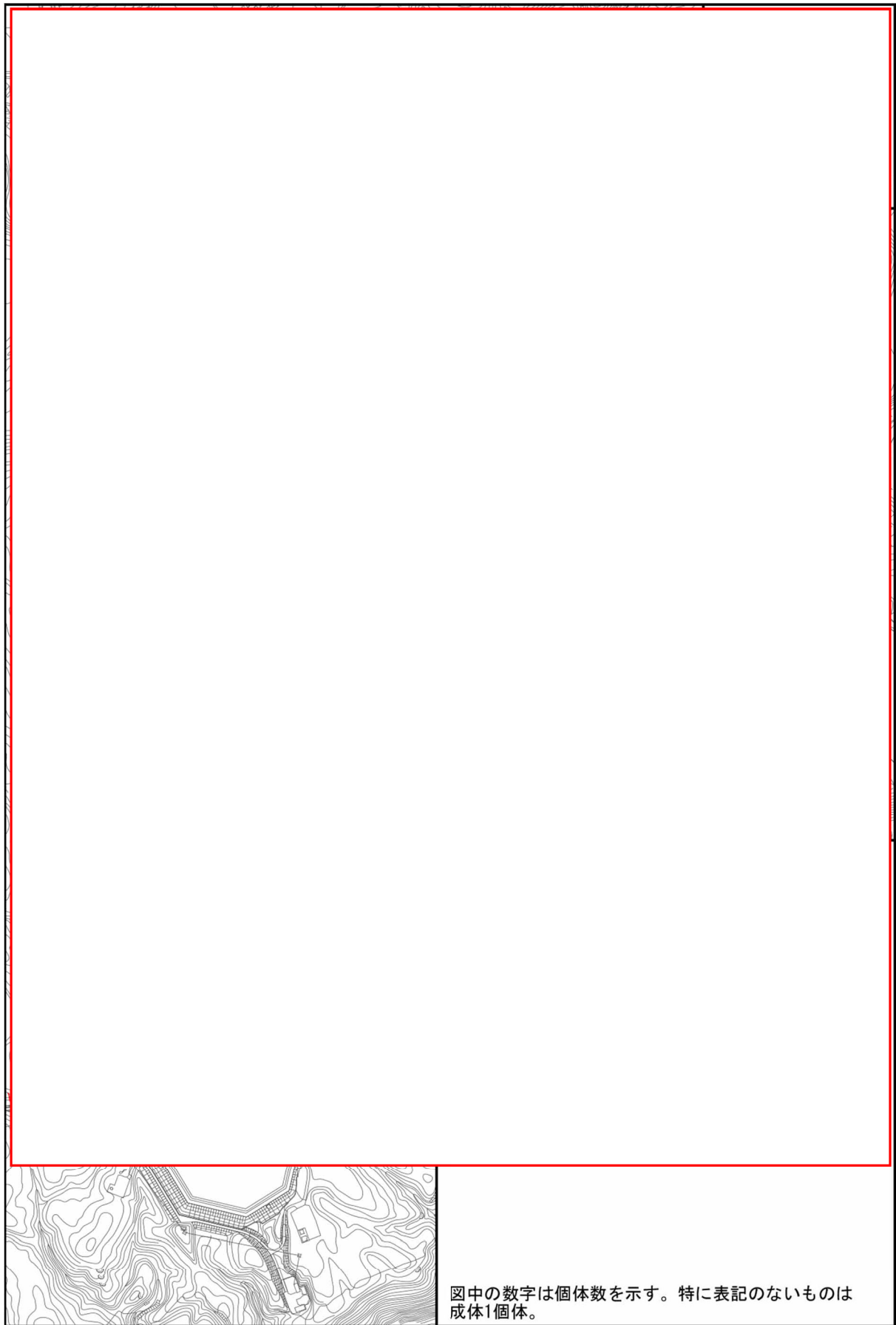
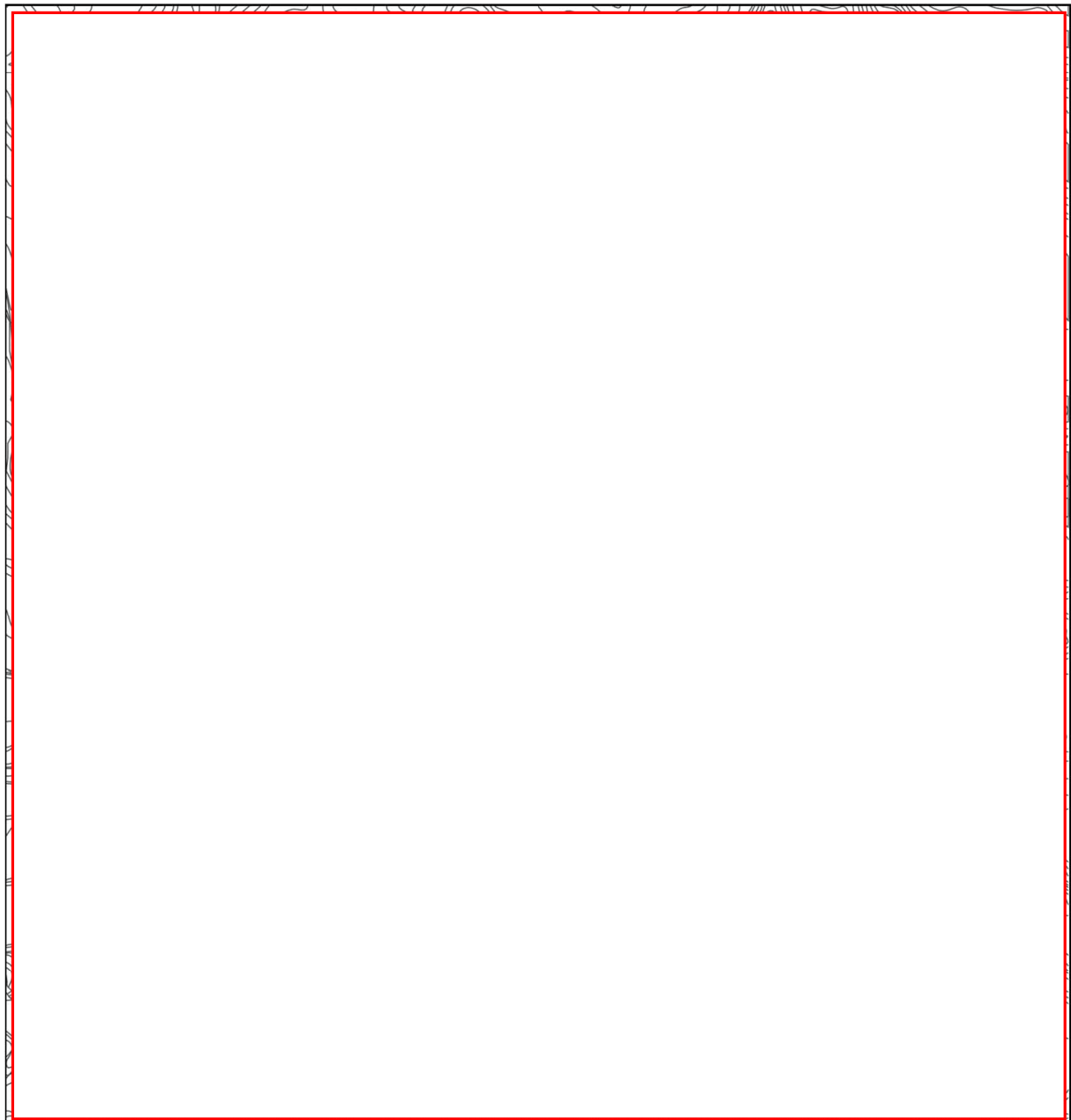


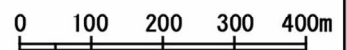
図 6.1.5-23 ヤンバルクイナの確認位置(G地区)



凡例

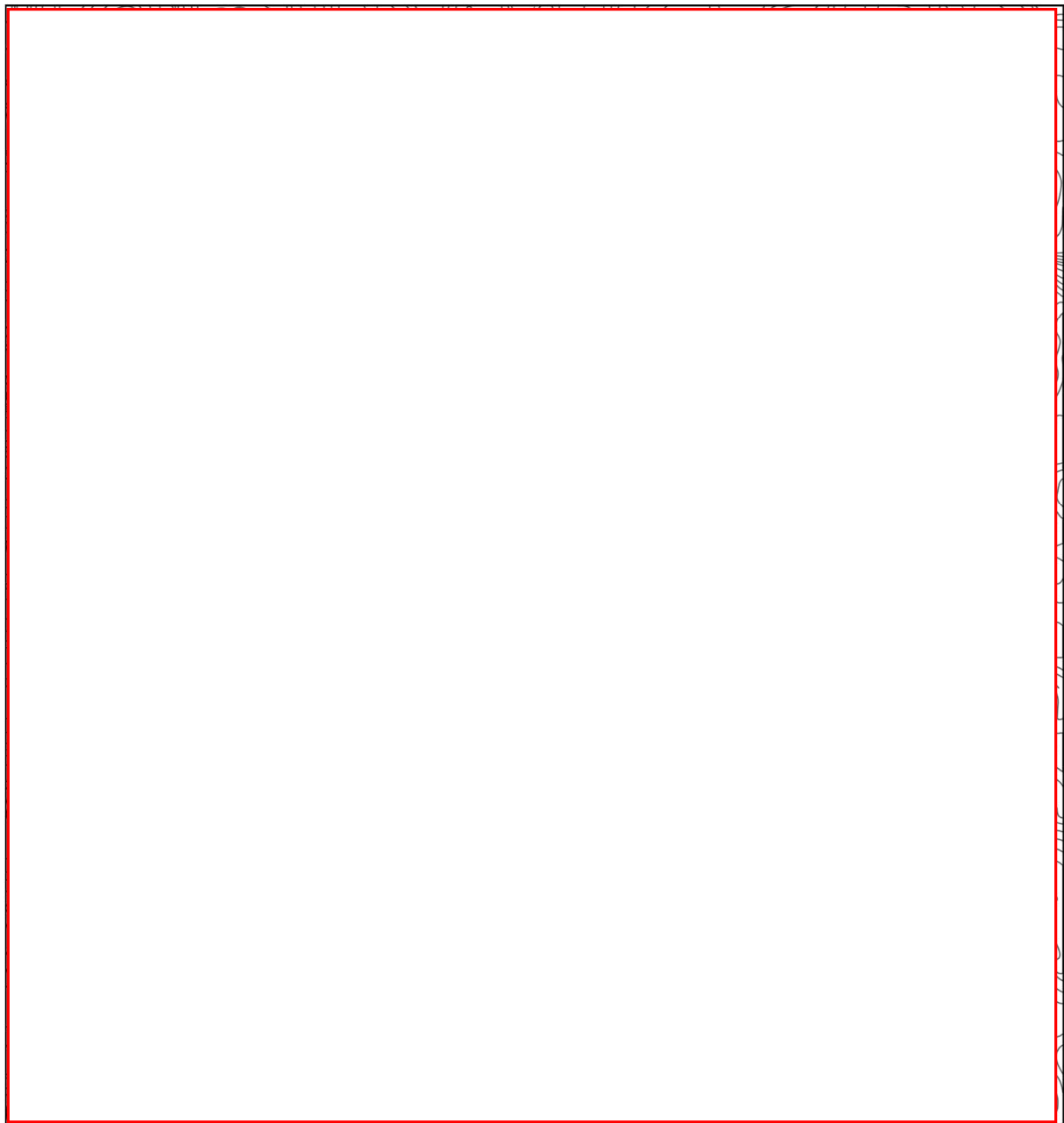
 : 調査範囲
  : 事業実施区域
  : 沢

-  : 春季
-  : 夏季
-  : 秋季
-  : 冬季



図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成鳥1個体。

図 6.1.5-24 ヤンバルクイナの確認位置(H地区)



凡例

 : 事業実施範囲
  : 調査範囲
  : 沢

-  : 春季
-  : 夏季
-  : 秋季
-  : 冬季



0 100 200 300 400m

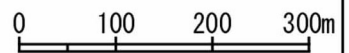
図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成体1個体。

図 6.1.5-25 ヤンバルクイナの確認位置(N-1 地区)



凡例

- ◎ : 事業実施区域 (---) : 調査範囲 — : 沢
- : 春季
- : 夏季



図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成体1個体。

図 6.1.5-26 ヤンバルクイナの確認位置(N-4 地区)